

在来寄生蜂を活用した 畜産害虫サシバエの生物的防除法の開発

代表機関：株式会社Arthron

実施年度：2025年度～2026年度（フェーズ2）

キーワード：在来寄生蜂、生物的防除、牛伝染病抑制

研究代表者：荒木啓充



在来寄生蜂を活用したサシバエの生物的防除により、防除作業の省力化と牛のストレス低減、環境配慮を実現する新たな害虫対策を目指す。本プログラムでは、安定供給技術の開発とテストマーケティングで実用化と普及を進める。

背景・目的 畜産害虫サシバエによる被害

近年、畜産現場ではサシバエの発生密度が増加し、対策が喫緊の課題となっている。吸血による強い痛みは牛にストレスを与え、生産性低下が懸念される。さらに、牛伝染性リンパ腫や牛ランピースキン病など22種の病原体を媒介し、伝染病感染リスクも高い。防除負担、生産性、安全保障の観点からも、効率的かつ省力的な防除技術の導入が急務である。

- ・体長4～6mm
- ・春から秋に発生
- ・鋭い針で牛を吸血



サシバエ



● はサシバエ

目標 キャメロンの安定供給技術の開発と本防除法の周知

キャメロンはサシバエへの寄主特異性が高い在来寄生蜂である。キャメロンを用いた生物的防除の実用化には、畜産農家へのキャメロンの安定供給が求められる。本事業では、キャメロンの羽化タイミングを調整し、安定的かつ計画的供給を可能にする冷蔵保存技術の確立を目指す。また、生産拠点から遠方に輸送する際、キャメロンの防除能を最大限に発揮させるためにストレスが低い輸送・梱包の開発を行う。加えて、生物的防除の実施例が乏しい畜産領域において、プレ・テストマーケティングを通じてキャメロンの活用を周知する。



研究内容 長期保存技術、梱包技術の開発とプレ・テストマーケティング

キャメロン寄生済みハエ蛹の長期保存方法の開発

生産・出荷調整を可能にする冷蔵保存法（温度、湿度等の最適条件検討）の開発

キャメロン寄生済みハエ蛹の輸送プロセス・梱包方法の開発

輸送ストレスを低減させ、防除パフォーマンスを最大化する梱包材・輸送法の開発

プレ・テストマーケティング

実施例が少ない本防除方法の周知と畜産現場でのサシバエ被害実態調査

事業化に向けた取り組み

初期顧客候補の選定、サプライチェーンの構築、知財・ブランド戦略の確立

牛にも人にも環境にも優しい
持続可能な新たな害虫管理を目指して

<代表機関概要> 株式会社Arthron（アルスロン）

■所在地：福岡県福岡市西区九大新町4-1

■連絡先：info[アット]@arthron.co.jp

[アット]を@に置き換えてください。



Arthron

令和8年4月1日時点